

## 未来都市を開発するイベントによる新しい計画手法 大阪・北ヤードトライアルイベント 2009 からの報告

○澤田裕二（株式会社エス・デー）

実証、共有、進化

### 1. 報告の意図とイベントの背景

#### 1) 報告の意図

今回の報告では、イベントが新しい都市計画の手法として、活用された事例を紹介し、イベントの新しい可能性を共有したいと思います。このようなイベントは、世界にも前例がないと思われ、今まで十分に活用されていなかった「イベントの実証機能」を再発見することをめざします。

大阪駅北地区、いわゆる北ヤードでは、今までに類のない未来都市の計画が進行しています。今回対象としたイベントは、その計画の一部を実験的に試作し、公開することで、そのプロセスと実施内容について、評価し、計画にフィードバックする試みです。

#### 2) 対象イベントの背景

大阪駅北地区は、全体で24haの面積があり、鉄道の貨物ターミナルとして、かつては物資を船に、今はコンテナをトラックに積み替えるターミナルとして機能しています。ここを再開発して、新しい都市とする構想が進行しており、その一部の7haを先行開発エリアとして、未来都市が計画されています。また、この都市は、関西全域を結ぶ大阪駅に隣接する好立地であり、関西再生の切り札として期待を集めています。

そのために、「Knowledge Capital=知的資産」をコンセプトに、高次元のコラボレーション機能を整備することで、新しい知的資産を効率的に生産する都市として、計画が進められています。さらに、この都市は、B to Bの開発拠点であるばかりではなく、多くの人が集まり、未来の生活提案を楽しむ集客都市として、一般の方々に開かれた場所です。

それによって、研究者やクリエイターに対して、生活者のニーズを感じることができる開発環境を提供し、マーケットリサーチをスピーディーに行えるなど、生活者とのコラボレーションも加え、新しい可能性の発展が期待されています。その結果、この都市は、新しいカテゴリーの集客性を生み出し、周辺の施設と差別化された個性によって、相乗効果をつくり出す、創造的で意欲的な都市の開発をめざしています。

しかし、このような都市は、未だ世界のどこにも存在しないため、企画運営会社である㈱ナレッジ・キャピタル・マネジメントは、その一部を試験的に制作・運用し、その結果を計画にフィードバックする手法として、イベントに着目し、実施しました。

かつて、ウォルトディズニーが、ニューヨーク大博覧会で、主要なアトラクションを企業パビリオンとして実現、実証し、ディズニーランドの計画を本格化させたことに似ています。つまり、イベントを活用して、開発したこの都市の仕組みと存在そのものが、この都

市がつくりだした、第1号の新しい知的財産となることをめざしたものです。

## 2. フィードバックのための評価方法

今回のイベントは、新しい知的価値を創造するためのコラボレーション計画を実証し、フィードバックすることを目的としたため、当初から以下のような属性のグループから評価データを取る方法が、織り込まれました。

特に、イベントに向けたコラボレーションに参加したグループ3とグループ4については、企画、制作プロセスについての評価と参考意見を、収集することを重視しました。

- ①グループ1 来場者へのアンケート調査
- ②グループ2 ユーザー企業へのヒアリング調査
- ③グループ3 出展関係者へのヒアリング調査
- ④グループ4 コーディネート関係者からのレポート

## 3. 評価の分析結果と開催内容

現在、上記のデータを集計分析中であり、具体的な結果と開催内容は当日に説明します。

## 4. 考察

現在、進められている評価作業から、以下のような効果が明らかになりました。

### 1) 業務の推進効果

計画されたビジネスコーディネート業務を実証的することができました。それによって、計画の課題や方針に対する理解が進み、計画の推進環境が整いつつあります。

### 2) 体験的理解の効果

類例のない施設を計画資料から理解することは、相当の予備知識と高度に訓練された理解力が必要ですが、体験することで理解を促進する効果が顕著にみられました。

### 3) 共通認識の形成促進効果

開発主体者、出展参加社、メディアと周辺企業、一般の方々に対して、それぞれのレベルで理解が促進される効果が見られ、期待感の形成がなされました。

## 5. 結論

対象イベントは、今まで意識されながらも、積極的に活用されることのなかった「イベントの実証機能」を前面に押し出したものです。今回の報告は、対象イベントの実施内容と効果の検証結果を通じて、イベントが社会に対して新しい発展をもたらす可能性と、その実施方法の一端を提示することを試みたいと思います。その上で、「大阪・北ヤードトライアルイベント」は、形を進化させながら毎年実施されることが検討されており、多くの研究者の方々が、関心を持ち、研究対象としていただくことで、イベントに更なる発展的な利用の道を拓き、社会の発展に寄与することを望むものであります。